



道着の刺し織生地を使ったバッグ等を製作

刺し織生地の丈夫さ、風通しの良さ、軽量、しっかりとした縫製等々の特性を活かして、料理用割烹着、作務衣、和帽子、バッグを製作。自社ブランド、OEM 販売を行う。ブランド名は「和楽」「sasacco」などである。

業況等の動向について

本業の動向について

剣道や柔道、空手、居合など、道着の製造販売を主業とする。創業は 1921 年と永年の業歴を有する。が、現在は、子供の減少、中国からの安い輸入品との競合などもあり、業況は思わしくない。

参入事業の概要

参入事業は、道着の生地(刺し織生地)を使った、料理用割烹着、作務衣、和帽子、バッグの製作である。ブランド名は「和楽」「sasacco」などである。

業況としては比較的好調に推移している。作務衣市場、バッグ市場は、多くのメーカーが参入し飽和状態ともいえるが、天然素材の良さ、軽くて丈夫ということで好評を博している。生地が丈夫で加工の機械化ができないため、一つ一つが手作りとなっており、価格は高めに設定せざるを得ない。それでも、リピーターを確保している。

異業種に参入した動機や経緯、きっかけ

刺し織生地は、1 ロット、数千メートルになってしまう。道着の需要が先細りするなか、新たな用途開拓として作務衣、和帽子、バッグなども製作するようになった。

マーケティングについて

マーケティングに関しては、コンサルタントとの相談、展示会への出展などを行っている。

参入しての投資について

今のところ特になし。既存の生産設備、材料で事が足りている。今後、需要の拡大が進めば、生産能力の拡大を検討する。

参入して最も成果のあったこと

展示会の出展で、通販会社、デパート、雑貨屋などから声を掛けてもらい、商売につながった。

多くのバイヤーと接することで、バッグのデザイン、使い勝手の向上等、より良い商品開発につながっている。

参入して最も困難だったこと。

従来の道着は学校が主な販売先だったため、販売先がなかったこと。

今後の展望・見通し

フランス・パリの展示会 プルミエールクラスに出ることになった。地場産業のコンサルタントを行っているライヴス(東京)のプロデュースで、フランスのバッグブランド「ルイゾン」と協業でバッグを製作した。フランスでは、柔道が盛んなので、本業の柔道着の拡販も目指したい。

メリット・デメリット

売上増。人と人との出会い。地域資源活用事業に認定されたことで、新聞やテレビに取り上げられるようになったのが大きい。

デメリットは、現在のところ特に感じてはいない。

異業種参入に際して注意すること、アドバイスなど

今ある素材の特長を最大限活かした、モノづくり。道着の丈夫さ、素材の風通しの良さ、しっかりとした縫製等々、それらを生かすモノ作りを心掛けた。

行政の支援について

異業種参入に際し、役に立った行政、支援機関の制度

地域資源活用の認定、中小基盤整備機構の OB 人材派遣事業でマーケティング面のアドバイスを受けた。

異業種参入に際し、行政に対して望む支援

地域資源の認定が今年終わる。終了後も、いろいろアドバイスを頂きたい。

会社概要

創 立 : 1921 年 4 月(大正 10 年)

U R L :

<http://www.tanei.co.jp> 武道着「タネイ」

<http://www.mikawa-momen.com> 三河木綿「sasacco」

<http://sasacco.jp> ブランド「sasacco」